

そらいんNEWS

「顔の見える関係から」から「語り合える関係」に
～発言力がある組織づくりを目指して～



特集：地域で高齢者の在宅生活をささえるには ～生活支援コーディネーターと協議体～

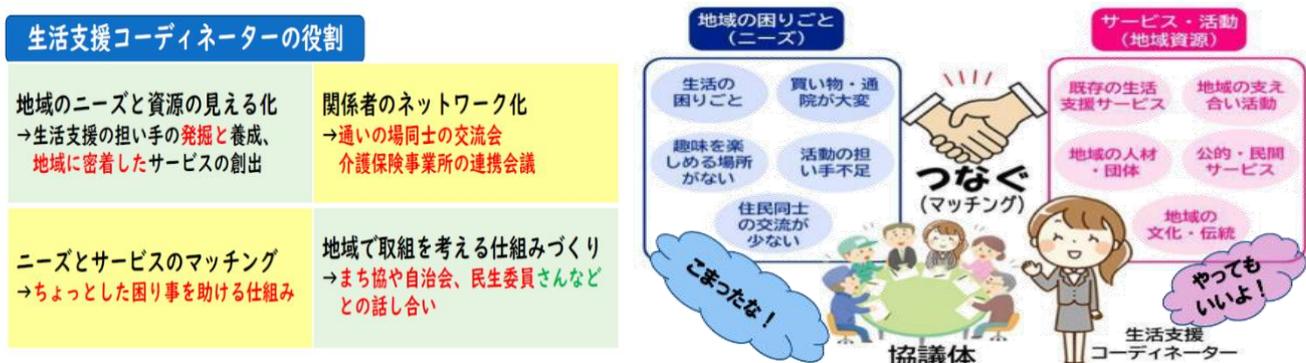
地域や高齢者の在宅生活を支えるためには、介護保険制度でのサービスのみならず、市町村事業や民間市場、地域の支え合いで行われているサービス、あるいは道具の工夫で行える自助も含めて市町村内の資源を把握し、保険外のサービスの活用を促進しつつ、互助を基本とした生活支援・介護予防サービスが創出されるような取り組みを積極的に進める必要があります。

そのためには、地域住民に身近な存在である市町村が中心となって、多様な事業主体による重層的な生活支援・介護予防サービスの提供体制の構築を行う必要があることから、生活支援コーディネーターと協議会を設置し、地域資源の開発やネットワークの構築を進めています。

生活支援コーディネーターと協議体は非常に重要な役割を担っています。

生活支援コーディネーターとは？

別名「地域支え合い推進員」と言います。高齢者の生活支援・介護予防の基盤整備を推進していく事を目的とし、地域において生活支援・介護予防サービスの提供体制の構築に向けたコーディネート機能を果たす者のことです。（厚生労働省：ガイドラインより）



1 東員町の取り組み紹介

[令和6年12月現在] 東員町 人口 25,749人 高齢化率 約31.5%

○担当エリア内の地域の社会資源（東員町八幡新田地区）

八幡新田地区の地域支えあい活動団体である「八幡新田見守りネットワーク」は、地域の誰もが安心して暮らせる八幡新田にする、八幡新田に住んでいて良かった、八幡新田で暮らしやすくを目的に、「八幡新田見守りネットワーク座談会」を開催し、見守り活動・やはたおでかけサポートといった活動に取り組んでいます。

見守り活動は、近所づきあいなどの日常生活の範囲の中で、「さりげなく」「ちょっと気にかけて」もらい、班長さんや近所の方の協力も得ながら地域全体で取り組んでいます。

やはたおでかけサポートは、誰もが安心して暮らせる八幡新田を目指し、みんなでおしゃべりを楽しんで親睦を深めることを目的とした、ピアゴ東員店までのお出かけ支援活動です。両活動ともに、八幡新田見守りネットワーク座談会での話し合いから始まった活動です。

座談会では、目的の達成を目指し、見守り活動の情報共有、八幡新田でいつまでも幸せに暮らし続けるにはどうしたら良いかの話し合いを続けています。



○普段の活動の紹介

地域支えあいの深化を目指し、町内の地域福祉活動等への支援を行っています。また、関係団体や専門職等に働きかけ、地域福祉の視点から助言や情報提供等を行っています。また行政に対して地域福祉の視点から具申するなど、福祉サービス等の創出や基盤整備等を推進しています。



お問い合わせ先

社会福祉法人東員町社会福祉協議会 総務福祉係地域福祉担当(生活支援コーディネーター)
電話:0594-76-1560 FAX:0594-76-1559

2 木曾岬町の取り組み紹介



[令和6年12月現在] 木曾岬町 人口 5,878人 高齢化率 33.3%

○担当エリア内の地域の社会資源（やっとかあんしん生活事業）

高齢化の進行などに伴って、身寄りがいない、また親族に頼れない等の理由で、将来に不安を抱える1人暮らしの高齢者や、高齢者のみの世帯が増加しており、終活についての相談が徐々に増えています。

老いや死に関してはどうしても遠ざけてしまうような雰囲気もあり、誰かに迷惑をかけてしまうのではないかと不安のみが募ってしまいます。また、問題は介護や医療だけでなく、金融など多岐に渡ることによって難しさもあります。こうした中で元気なうちに少しずつ、その時を迎える手伝いをするため、町社会福祉協議会では生活相談サービス、預託金による保証機能サービスを柱とした「やっとかあんしん生活事業」を創設しました。

○普段の活動の紹介

地域の多様な社会資源の発掘や地域のサロン等の支援、また課題を抱えている方の支援を行うこともあります。関係団体や専門職とも連携し、地域福祉に関する情報提供を行っています。また、高齢者の就労支援やボランティア意識の高い方の把握なども行い、その方が生きがいをもって生活ができるよう取り組んでいます。

やっとかあんしん生活事業とは・・・

身寄りがいない、親族を頼れない等の理由で将来に不安を抱える一人暮らし高齢者や、高齢者のみの世帯を対象に、元気なうちに社会福祉協議会と契約し、必要な時にサービスを利用できる事業です。また判断能力の低下や死後の準備など、将来の問題についてもご相談に応じて一緒に考えていきます。ご相談は無料です。

●対象者

木曾岬町在住で契約内容をしっかりと理解できる満65歳以上の一人暮らし、または満65歳以上の高齢者のみの世帯で、下記の全てに該当する方。

1. 支援可能な親族がいない
2. 生活保護を受給していない
3. 負債がない



お問い合わせ先

社会福祉法人木曾岬町社会福祉協議会

TEL: 0567-68-2760 Email: k-shakyo@m6.cty-net.ne.jp

ホームページ: <https://care-net.biz/24/kisosaki/>

P D F : <https://care-net.biz/24/kisosaki/data2/2021/0413/02.pdf>

3 いなべ市の取り組み紹介



[令和6年10月現在] いなべ市人口：44,530人 高齢化率：28.1%

○ 地域の社会資源を紹介

この地域の特徴は、高齢化が進み自治会長や老人会等の地域の担い手不足という課題があり、新しい活動に取り組むことに負担を感じています。特に自治会長となれば、長期にわたり役員を務めなければいけない状況となっています。ただし、役員は難しくても協力的な方が多いのが強みであり、20年以上活動している自警団が中核組織として地域活動に取り組んでいます。活動としては 毎月1回、地域の空き家の草刈りや、消火栓の確認、自治会行事の準備等です。地域の頼りになる団体です。

自治会長より30代から70代の幅広い年齢層で活動している自警団の存在を聞き、生活支援コーディネーターとして平成31年頃より関係性を築くため定期的に自警団の活動に参加をしています。その中で 自警団の協力はなくてはならない組織だと考えました。

また、いなべ市では 自治会長へ相談しながら地域内の横のつながりがさらに深まるよう、平成29年より自治会単位での見守り活動や情報共有の場として、地域に福祉委員会の設置を推進しています。

福祉委員会の目的は、高齢者の見守り活動、「地域の宝」である子供を見守る活動の2点です。その中で、高齢者の見守り活動の一つとして始まったのが 独居高齢者に対しての粗大ごみの搬出支援です。回覧周知を行い、福祉委員会と自警団が協力し搬出の支援を行っています。年2回程度支援をですが、若い方と高齢者のつながり、支え合う場となっています。自主的に話し合いの場をもち、何か困りごとがあれば、お互いに相談できる関係性が築けています。

※自警団とは、火災・水害・盗難などを防ぐため、地域の住民が組織する警備団体や、ボランティア活動団体です。

参考資料：いなべ市 生活支援拠点について

<https://www.city.inabe.mie.jp/kenko/shogai/shisetsu/1011911.html>

お問い合わせ先

社会福祉法人 いなべ市社会福祉協議会 地域福祉課

電話番号：0594-41-2945 Email:chiiki@inabewel.or.jp

4 桑名市の取り組み紹介

[令和6年9月現在] 桑名市人口 138,155人 高齢化率 約27.6%

桑名市の生活支援コーディネーター

(以下、SC) は、市全体を統括する1層が1名、地域包括支援センターごとに2層が6名の計7名配置されています。所属は桑名市社会福祉協議会、医療法人普照会、社会福祉法人憩、社会医療法人尚徳会と様々ですが、それぞれの所属、資格、経験などの強みを活かしながら桑名市全体の地域福祉の向上に向けて活動しています。

通いの場の創設・運営支援や生活支援サービス（ゴミ出しや買い物など）

の創出、地域住民や介護事業所等の関係者のネットワーク化を推進するだけでなく、令和4年度からは移動や外出に困難を抱える方を支える移動支援ボランティア養成を重点的に取り組んでいます。

ケアマネのみなさんも利用者さんの「こんなことで困っている」、「あんな資源があればいいな」の声をぜひSCにお届けください。



【企業力を地域の源に！ ～久米地区社会福祉協議会×生鮮館やまひこ～】

市南西部に位置する赤尾台地区は、山を切り拓いて開発された住宅団地。数年前より通いの場はあるものの、坂道が多く参加したくてもできないという課題をSCと地域住民は共通認識で持っていました。

そこで、新たな通いの場創設に向けてSCと久米地区社会福祉協議会で検討を重ねました。そこで、地域住民になじみの深い、生鮮館やまひこさん（食料品店）に空きスペースの利用について相談したところ、快諾してくださいました。今では、場所の利用だけでなく、備品の管理をしてくださる等、地域住民の負担を減らし、少しでも活動がしやすくなるように協力してくださっています。

活動を始めてから約1年が経過。参加者からは、「体操のついでに買い物ができる。1か所で用事が済むからありがたい」との声があり、双方にメリットがあるのではないかと思います。

地域の課題は地域住民の力だけでは解決できないことも多くあります。地域と企業をつなぎ、お互いのできることを、やりたいこと、困っていることをマッチングすることで解決できる課題もあります。ひとつでも多くの課題が解決できるよう取り組みを進めています。

【通いの場と個別ケースのマッチング ～長島北部まちづくり協議会～】

市北東部に位置する長島北部地区は高齢化率が37%にせまる地域です。通いの場はあるものの、数年前から担い手の不足による消滅などが続き地域住民の健康や介護予防に資する場づくりが必要という認識をSCは抱いていました。

そこで、新たな通いの場の創設に向けてSCが長島北部まちづくり協議会健康福祉部会に参加し、当時千倉地区で行われていた体操会を他の自治会でも開催できないか提案しました。すると部会に参加する住民の方々もSCと同じ認識を持っていたようで、制度を活用しながら続々と自治会単位の体操会を立ち上げていきました。今では区内8自治会で体操会が行われており、地域の貴重な資源となっています。

本年度、桑名市の「ゆめはまミーティング」（地域ケア個別会議）にて、疾病後の在宅生活が消極的で不活発なケースを検討しました。SCからケアマネジャーに近くの体操会を紹介し、その後住民さんと情報を共有する場を設けました。1カ月後、地域の方から「お話しにくるようになったよ。ときどき一緒にコーヒーも飲みに行くよ」と嬉しいお言葉をいただきました。地域資源があっても、個別ケースの課題とマッチングすることは簡単ではありません。私たちSCは、まちづくり協議会などとの協働を通して地域資源の創出はもちろん、地域とのつながりづくりを丁寧に行うことで、個別ケースの課題解決に貢献できるよう努めています。

【助けあえる地域を目指して～精義おたすけ隊～】

くわなメディアライブやアピタ桑名店など商業施設の多い精義地区は、東部圏域の中でも高齢化が進んでいる地区です。一人暮らしや高齢世帯も増加しており、電球交換やゴミ出しなど公的な制度では解決できない課題が生まれてきています。

そこで平成29年に精義地区社会福祉協議会が中心になり、ささえあい支援事業（住民主体の生活支援サービス）として精義おたすけ隊が発足しました。SCとしては住民やケアマネジャー等への広報等の後方支援を行い、住民ニーズとのマッチングをサポートしています。また、おたすけ隊員に認知症徘徊模擬訓練や認知症ステップアップ講座等を受講してもらい、認知症の方の見守り活動もするようになりました。さらに、SCが日頃から関係を築いている地域の方に障がい者就労支援施設へ声をかけてもらい、施設との話し合いを重ねて“地域の役に立ちたい、地域と交流したい”との声を具現化する形で「みのりちよっとお助け隊」が誕生しました。高齢者も障がい者もささえられる側だけではなく、ささえる側として地域で活躍しています。生活の小さな困りごとを助けて欲しい高齢者が増加している一方、それを支える担い手が不足しています。これは精義地区に限った話ではありません。SCとして担い手を増やすため、地域で活動している様々な団体やグループに働きかけ、誰もが安心した生活が送れるような地域づくりを進めていきます。

全域・統括：1層

北部西包括圏域
(筒尾地区・松ノ木地区・大山田地区・野田地区・藤が丘地区・星見ヶ丘地区・陽だまり地区・新西方地区)
多度圏域

西部包括圏域
(桑部地区・在良地区・七和地区・久米地区)

南部包括圏域
(日進地区・益世地区・城南地区)

北部東包括圏域
(深谷地区・大和地区)
長島圏域

東部包括圏域
(精義地区・立教地区・城東地区・修徳地区・大成地区)

	包括圏域	連絡先
1層	市全域	22-8218
	東部包括	24-8080
2層	西部包括	25-8660
	南部包括	25-1011
	北部西包括	49-2029
	北部東包括	42-2110

生活支援コーディネーター
(社協HP)

通いの場

介護支援ボランティア制度

シルバーサロン
(通所型サービスB)

桑名市健康・ケア教室

ささえあい支援事業

お問い合わせ先：

社会福祉法人桑名市社会福祉協議会 地域福祉課

TEL: 0594-22-8218

ホームページ: <https://www.kuwana-shakyo.com/>

Email: chiiki@kuwana-shakyo.com

5 研修会の報告

【ハイブリッド研修】 参加者：120名（会場：43名 オンライン：77名）

第3回研修会 令和6年10月16日（水）13：30～15：30 東員病院

「数字から見える認知症の現在と認知症疾患医療センターとの連携について&東員病院見学」

講師：東員病院 認知症疾患医療センター副院長（事務統括） 山本 幸孝 氏 ・ 精神保健福祉士 辻 謙二 氏

【会場研修】 参加者：50名 会員限定！

第4回研修会 令和6年11月13日（水）13:30～16:30 くわなメディアライヴ 多目的ホール

「対象者を理解するための視点、基礎知識を学ぶ」

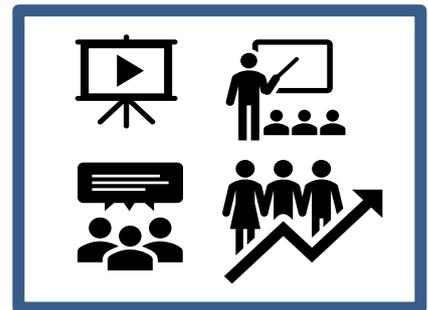
講師：optim's-pt(オプティムズプロジェクト) 代表 上原 久 氏

【オンライン研修】 参加者：73名（会員：53名 非会員：20名）

第5回研修会 令和6年12月11日（水）13：30～15：30

「ケアマネが知っておきたいお金の話」

講師：司法書士 福村 雄一 氏



6 今後の研修会のご案内

令和7年度の研修についても、魅力ある研修会を現在計画中です。
日程等が決まり次第会員の皆様にはご連絡をさせていただきます。
幅広い分野の研修を考えていきますので、日程等を確認いただき
研修会の申し込み、ご参加をよろしく願いいたします。

なるほど！



一般社団法人日本介護支援専門員協会 東海ブロック

令和6年度東海ブロック研修会 in 三重が開催されました。



開催日：令和7年2月11日（火）10：00～16：00

会場：アストホール津 Zoomを活用したハイブリッド

会場参加者：125名 ZOOM参加者：61名

東海4県の交流の場として毎年開催されている研修会。

今年は、ケアマネジメントの諸課題や能登半島地震と災害

支援について講演や、東海4県の災害についての発表がありました。

大震災の備えについて知識を深めることのできる研修会でした。ご参

加された方は、各事業所や地域で話し合いをするきっかけにしてい

ただけだと感じます。次回は、愛知県での開催が予定されています。

そういんNEWSは三重県介護支援専門員協会ホームページにも掲載しています。http://mie-cma.com/